

経営学研究科の学位授与の方針（ディプロマポリシー）
及び教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）について

1. 建学の精神

東京経済大学大学院は、大倉商業学校創立者大倉喜八郎の「進一層」の心に代表される良き伝統を体して、日本国内外に生起する現代的諸問題の解決に資するべく、広い視野の下に各分野における専門知識と理論、情報の収集・分析・活用能力、的確な表現能力を体得し、かつ社会的倫理を尊重する堅実な専門的職業人や、真摯な研究者の育成を目的と定め、その実現のために教育と研究を誠実に遂行することをもって建学の精神とする。

2. 経営学研究科・専攻等の教育研究理念

経営学研究科は、企業社会が抱える諸問題の本質を捉えて分析し、その実践的な解決を探求する基盤となる研究・教育を推進し、以て企業社会の未来を切り開く気概と専門知識・倫理観を具えた企業人、専門家、研究者を養成する。

3. 経営学研究科・専攻等の教育研究目的

経営学研究科経営学専攻は、経営の理論的な研究・教育と、その応用を目指した実践的な研究・教育によって、先見のかつ創造的に問題を発見して解決する専門的能力とともに高潔な倫理観をもって社会的責任を果たし、グローバルな経済・経営の舞台で活躍する、企業人、専門家、研究者の養成を目的とする。修士課程及び博士後期課程の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については次のとおりとする。

(1) 修士課程

企業社会に関わる情報を収集、加工、活用する専門的能力を培い、企業経営の諸問題を先見的に発見して創造的に解決し、その実践的応用によって社会に貢献できる企業人、専門家を養成し、さらに研究者としての基本的能力を育成し、将来のより高度に専門的な研究活動に従事しうる人材を養成することを目的とする。

(2) 博士後期課程

企業社会に関わる研究活動に自立して持続的に取り組むために必須な専門的能力を育成し、経営学の発展に寄与する創造的研究を通して、企業社会に貢献できる研究者・専門家を養成することを目的とする。

4. 経営学研究科・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

経営学研究科は、企業など各種組織の経営に関わる組織・経営戦略・会計・財務・金融・保険・人事・労務・商業・流通・マーケティング・情報システムなどについて、高度な知識と分析能力を備えた専門的職業人を育成し、所定能力を得た者に以下の方針で学位を授与する。

(1) 修士課程

大学院に2年以上在籍し、所定の授業科目について必要な単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に修士（経営学）の学位を授与する。学位授与にあたっては、大学院経営学研究科委員会における審議によって、厳正な判定を行う。履修した所定の授業科目の合格・不合格は、筆記試験もしくは口頭試験又は研究報告によって決定する。

(2) 博士後期課程

大学院に5年（修士課程における2年の在学期間を含む）以上在籍し、所定の授業科目について必要な単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に博士（経営学）の学位を授与する。ただし在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、大学院に3年（修士課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるとする。学位授与にあたっては、大学院経営学研究科委員会における審議によって、厳正な判定を行う。博士学位論文及び最終試験の合格・不合格は、経営学研究科委員会が選出した審査委員の報告に基づいて、経営学研究科委員会が決定する。大学院の博士課程を修了しない者であっても、論文の審査及び試験に合格し、かつ専攻学術について、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認された者には、博士（経営学）の学位を授与する。

5. 経営学研究科・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

経営学研究科は、企業など各種組織の経営に関わる組織・経営戦略・会計・財務・金融・保険・人事・労務・商業・流通・マーケティング・情報システムなどについて、高度な知識と分析能力を備えた専門的職業人を育成するため、以下の方針でカリキュラムを編成する。

（1）修士課程

上記の経営分野についての基礎知識を深めるための科目群として、研究を配置する。更に専攻分野についての高度な知識と分析能力を培うために、専修科目（演習）を配置する。学生は専修科目の担当教員を指導教員とし、授業科目の履修並びに論文作成その他研究一般について個人指導を受ける。必要に応じて特別講義を開講する。いずれの授業においても少人数教育を原則とし、能動的な参加と自由な議論を通じて自律的な研究能力を培うことを目指す。

（2）博士後期課程

経営分野について自立的に研究活動を推進できる専門的な研究者を育成するため、専攻研究分野毎に、研究指導を開講する。学生は高い学術水準の博士論文を完成させることを目標に、指導教員の個別指導を受ける。